

夏戦Ⅳ in RoboCountry Ⅳ & ロボット JUDO 競技会レポート

香川ヒューマノイドロボット研究会のメンバーが中心となって運営している、四国有数のロボット競技会「RoboCountry Ⅳ」。第14回 ROBO-ONE 決勝出場権認定大会として、8月9日に今年で4回目となる「夏戦Ⅳ in RoboCountry Ⅳ」が開催された。今回は、情報通信交流館「e-とびあ・かがわ」（入場無料のIT系科学技術ミュージアム）が開催したサマーフェスティバルイベント、「スポーツと科学～チャレンジ！とぶ・はしる・なげる～」および「ロボットオリンピック」との連携イベントとして実施。e-とびあ・かがわが入っている、香川県高松市のサンポートホール高松の第1小ホールで行われた。また翌日には、e-とびあ・かがわ内でロボットオリンピックのメインともいえる、ROBO-ONE ルールとは異なる「ロボット JUDO 競技会」も実施。それらを合わせてお届けする。

ディビィ白崎



RoboCountry Ⅳの参加ロボットたち

今回は、22機のロボットが参戦。地元の高校、大学、専門学校の学生チームやビルダーのほか、関西圏や、遠くは関東圏からのビルダーもエントリーした。参加ロボットの中で面白かったのは、コントローラー系の工夫をしている機体。岡山県立大学ロボット研究サークル Mechaniker（メヒヤニカ）の「サントス」は、PK 戦用に造られたロボット。Wii リモコンを利用しており、振ることでキックを行う仕組みだ。今回はバトルに対応するため、Wii マンチャクも接続して十字キーやボタンなども使って操縦できるよう改造したそうである。ただし、実戦でのキックは難しそうだった。

同じくリモコン系では、ムイムイさんの「ゴージャスファイブ」も面白かった。株式会社エスケイパンの「ゴジックファイブ」を改造し、サーボを5つから8つに増やした機体なのだが、テレビのリモコンで操作できるのが特徴。ちゃんとバトルで微妙な操作ができるのか疑問符のつくところだが、トーナメントの合間に行われた、2回戦までの敗者によるランブルでは見事優勝を果たしており、十分使えることを実証して見せた。

また、バトルは度外視ということで、とにかくネタ勝負だったのが、地元ビルダー・ケイマン ファミリーのお父さんであるあつしさんの「ケイマン1号」。お父

さん・お母さん向けのビートたけしの往年の「コマネチ！」を筆頭に、小島よしおの「そんなの関係ねえ！」、さらには世界のナベアツ（と思われる）のカウントアップし



岡山県立大学ロボット研究サークル Mechaniker のサントス。



ゴージャスファイブはテレビのリモコンで操作。



ファミリーで参加している地元ビルダーの熊工房さんのロボックマ(右)とコロボックマ(左)。

て特定の数字の時に変なパフォーマンスをするなど、いくつかのモーションを搭載。また、本体のスピーカーは音量が小さいということで、無線で飛ばしてラジカセをスピーカー代わりにしていた。

優勝したのは Cavalier !

競技会はまず予選が行われ、最初にパイロットやビルダーによる2分間のマイクアピールを実施。その後、ペットボトル倒しという流れだ。ペットボトルは、ROBO-ONE リングの中央に2リットルボトルを置き、その左右に1リットルボトルを配置。8角形の各頂点に500mlボトルという具合で、全部で11本のペットボトルが置かれている。もちろんすべてに水が入っているの、2リットルボトルに至っては2kg以上。得点は、2リットルボトルが6点、1リットルが3点、500mlが1点で、すべて倒せば20点という具合だ。制限時間は昨年の半分になり、1分間。制限時間内に何点取れたかで予選順位が決まり、トーナメントのシード権などを獲得できる仕組みである。昨年もパーフェクトだったレグホーン (NAKAYAN) が、今年もすべてを倒してのけた。

決勝ルールは、相手から3ダウンを先取した方が勝ちで、スリップカウントはなし。制限時間は3分だ。クラス分けはなく、22台がひとつのトーナメントで対決した。決勝は、レグホーン対 Cavalier。Cavalier は、この日もダウンを1度も取